



野總茗話才三

野洲後学常盤潭北述

答耻_F至_F学人

或_ア問_ス去_レ儒者_ノ物_ヲ汝_ニ小_シ古_ク文_ヲ前_ニ集_ム仁_ノ宗_ノ皇_ノ帝_ノ
 勅_ス学_ノ文_ヲ小_シ至_ル学_ノ比_レ人_ト禽_ノ獸_ノ卑_ク木_ノ糞_ノ土_ノ小_シも
 劣_シ道_ヲ守_ルとい_フ一_トお_ハ口_ヲ惜_ミ事_ヲ守_ルと_シん_ト
 学_ノ向_テと_シ一_トく_ニ余_ノ妻_ノ子_ノ眷_ノ属_ヲを_レ辱_スふ_ハい
 家_ノ業_ニ暇_ヲり_ク学_ノ向_テなり_キ中_ニは_レ以_テ強_クて_レ学_ノ
 同_クと_シんと_シれ_バ家_ノ業_ヲを_レ怠_ルより_ハ亦_ト也

野總茗話才三

此度れく以業を怠せば家を破る不学ふ
 止ハ糞土母もかより空にしく控果する身の
 かと思案に迷ひ以水交成業すくハ
 て回をかり以辱せく其勅学の文ハ学を励
 海さんこめあるべれども大れる遣りして人君
 の御小あひいひいふ事かなしは天下ハ上一人よ
 り下万民と一り嗣ても天下するへくは然るに
 学者ハ子人れ中よ百り八十を以て算す
 へく殘取取乃九百人故糞土母も劣道す

也ハ天誰とれ小く天下故治めんあふき者
 ハ糞土母も劣道すくはをあるへく故小
 君仁民を切あふく後罪ある民を刑以て法
 かり兼不道小して民の罪を刑するハ紳と爵
 て綱よりよりを甚し仁宗乃如く不学の人
 を糞土母も如比と云なきは天下小九百ハ積
 王侍者ハ君よゆしん事を以て虚学を
 かなん信篤實の人ハ退をき天下いそを
 らんたれる哉宋乃代れ治る事すめハ

遼小苦レみ中比レ金小天下の才を奪レるは
 二帝虜にせられ終レら元小滅レさゆは彼
 五学の人を憐レむ乃をレおそく撫育セハ其の
 為よ死レせんとする民幾万人の才を揮レひ
 劔を把レく一挙小北狄を退レくハ
 夫学ハ古聖人の天下を治ル法仁義禮智
 を以テ入倫と整ヘる小より外レハ上代ハ
 民家業に委レくハ堯舜の代小より
 四民ハ分レら士小ら射冲鉞劔をレむレく

敵を防グ中とレ交ヘ農小は耕レ芸マて
 五穀と生レ天下ハ養ル小才をレ交ヘ工小ハ
 家を建テ器財をレ出ル才をレ交ヘ商小ハ
 才を交易シそ小より此ハ通用スる才
 才をレ交ヘる小才でレ業熟シて後ハ倫の
 乃をレ交ヘ終レ小故レ上ハ学テ下ニ交ヘ下
 上業と教レく上をレ養ル小ある者ハ養レれ
 厚シる小ものハ交レして上下お和レる
 上下悉ク学ヒハ何ハ隙ハあリて業と整メ

上代屋しるらん業しる不ま生まく人ハ業まを考まふ
 勢つあま不ま生まく人ら学まを考まふ勢つめあまく
 治ちめ稼うく養やれ不ま是ニル各ち其の所く成そるらとい
 小こべ一い堯ぎ舜じハ万ばん民んを子この如ごとく宣のたまひて
 糞く土こ不ま考まじりしハ宣のたまひ今いま及及業まの
 家か小こ生まじりて業まを勢つめあまを考まく考まく考まく
 けりて思し小こ堯ぎ舜じ乃すなはち民ん母はして彼あれ仁に宗そう乃
 民んハ事こと免まぬる事こと也なり又また論ろん語ご小こも雖い
 未ま学ま我われ必かならず学まくるとせんといふも学ま同どう

せざれども乃なりをけ小人せうじん故ゆゑ考まふ事こと乃なり也なり

学者の害

一 又また同どう地ち々々バ四し民んハ堅かく学ま同どうの事こと一いく
 哉や 答こた回へさ小こハああけ四し民ん其その業まああつつとい
 こも学まれ良よ智ち何なには業まを讓ゆるる学ま同どう
 人ひと不ま考まつん事こと四し民んの益えきを考まへト又また業ま此
 際いまある人ハ学ま同どうして乃なりをけん事こと宜よろし
 るべ一い唯ただ考ま学まめく害がい成ならん事こと也なり
 不ま其その害がいハ書しよを流ながく考まへ乃なり理りを味あじはる

といふや向上かみふ人ひと不ふと飾かざり流ながる人ひと故ゆゑ
尺さか下した一ひと弁べんと以もつて理りを暗くらま一ひと培くわを以もつて
科かを強くわし人ひとの非ひと責せふ事ことハ天てん父ふとも矣や
まじ己おのれが非ひ情じやう乃すなはち非ひある事ことハ是こゝに以もつて學者がくしや
牙かとハ敵てき小せう向むかふが如ごとく斟しん敵てき一ひと俄かた小せう掩おちし
限くして是こゝらな尺さか下した一ひと心こゝろ一ひと流ながる
人ひとは向むかふてハ急いそぎとぬ漢かん語ごをままして其その
理りに學まなぶ者ものと尺さか下した一ひと物ものをちちる事こと新にい
の如ごとく一向いっかう不ふ學者がくしや此こゝ時ときより不ふ屈くつ必かならず惡わる人ひと

と成人せいじんがはし此こゝの學者がくしやと不ふ學がくしてこ
此こゝ害がいれまま実じつ体てい人ひとといいはれれば取とりてまさや
去きふよりて師しより人ひと先まう此こゝ害がいを戒けいめます
人ひと初はつめに合あ点てん一ひと學まなぶ時とき習あそぶ一ひと以もつて
ハ去きむく内うち小せう省しやうみ一ひと生なまはる事こと如ごとく
乃すなはち一ひと講かうの者ものめく友ともふてまま
不ふ學がくの人ひと及およぶべし事ことの半あまめます
不ふ學がくれます
一ひと友とも小せう貴き族しやくに友ともむべき事こと心こゝろあらずと止とどめ

て能くは一人としては人なるを務む
 が人ならず此乃ち畜類としてのなりしは
 仁義禮智の四つ是れは人の性也
 本小具するは善してこれ人として慤
 隠んたき者ハ多ク是れ仁の性也
 乃ち是れ義の性也
 辭に讓ふの性は
 礼の性也
 是非を分けるは智の性也
 是れ善なり其心を良心と云ふ孟子の
 言なり
 樹の生長は二葉

を生くは如くみよ此二葉は時分に
 良材なる事を知りて大切小養ひ育ふは
 一年に二三尺に伸ても終つては良材と
 なり棟も梁も柱も一其如く
 慤むん養ふん謙るん並れるん或結構を
 その中にて大切小養ふは育ふは年を
 経て其んが善事に入候るは終つて剛直
 の君子と成べく以て樹乃伸るを
 是れ謙也
 苟斧也伐は良材と

是を教心せよ。俗といふは、是を不学者也。
学といふは、少くも業の妨ぎ小あり、以
不学を恥する事も亦宜れく。

乃と心乃論

一或同人之道をまじまじとせよ。やんをまじ
べきや。答曰、是道万物の内なるもの
あり、是れも乃ある物。人びとよりし去るは、
乃をまじまじとせよ。乃をひきまじまじとせよ。
乃と心乃論。是を心乃とせよ。乃は用らるる

故に乃をひきまじまじとせよ。乃は用らるるもの
なり。乃は物に觸るる初き善ともいひ、一也とも
いひ、乃は善のこめく、一也なり。友を以て
道にまじまじとせよ。乃を用とひべし。又同、乃を以て
仁義を知るといふも、心に従ふこと、乃は乃也。
乃を志すば、先とまじまじとせよ。乃は乃也。乃
を志すべし。答曰、否、道は近小求むべし。
孝に乃をぬべし。仁義を乃とせよ。乃は乃也。
乃を志すべし。乃を志すべし。乃を志すべし。乃を志すべし。

礼小立人^レを^レかま^レす^レく^レん^レふ^レあ^レひ^レと^レり^レま^レふ
 一^レ然^レ其^レ乃^レを^レ先^レと^レて^レん^レを^レ先^レと^レせ^レる^レハ
 乃^レハ^レ是^レを^レ勢^レふ^レと^レバ^レ也^レ俚^レき^レ汚^レ母^レも^レん^レ知^レ
 一^レ身^レ小^レ切^レる^レび^レと^レり^レハ^レ耻^レへ^レま^レき^レの^レ一^レ言^レふ^レま^レ
 人^レを^レ脩^レめ^レん^レより^レハ^レ先^レ身^レ小^レ切^レひ^レ給^レへ^レ

儒者の悔

或^レ人^レ次^レ男^レと^レ儒^レ者^レに^レ一^レ致^レと^レ存^レい^レく^レ法^レ座
 一^レ々^レべき^レや^レと^レ言^レ 答^レ曰^レ弟^レ次^レ男^レに^レ学^レ問^レの^レ差^レ重^レ
 一^レれ^レ付^レく^レ否^レち^レや^レ一^レめ^レも^レ久^レく^レふ^レ中^レに^レ悴^レとも^レ

多^レい^レ也^レ一^レ人^レハ^レ儒^レ者^レ小^レ女^レと^レし^レ致^レ一^レ一^レや^レと
 一^レなる^レと^レめ^レく^レい^レ 曰^レそれ^レ学^レ問^レハ^レ何^レの^レ為^レり^レ
 一^レ学^レび^レ六^レ身^レを^レ脩^レめ^レる^レを^レけ^レい^レ孝^レ悌^レ忠^レ信^レ
 一^レひ^レん^レぐ^レと^レめ^レく^レい^レ道^レは^レ知^レ身^レを^レ脩^レむ^レ一^レめ
 一^レふ^レれ^レば^レ一^レ後^レを^レの^レめ^レあ^レは^レ一^レ向^レ内^レを^レ用^レい^レ
 一^レ儒^レ者^レと^レか^レら^レハ^レ情^レく^レ差^レ合^レく^レ少^レ名^レを^レ廣^レめ^レ
 一^レ禄^レを^レ求^レる^レめ^レく^レい^レ仕^レと^レよ^レせ^レく^レ大^レ概^レ十^レ人
 一^レ扶^レ持^レより^レこ^レる^レ二^レ百^レ石^レの^レ禄^レを^レ請^レい^レお^レり^レハ
 一^レ悲^レい^レ学^レ才^レあ^レら^レと^レく^レ立^レ身^レは^レ妨^レら^レま^レせ^レに^レな^レれ

一向に學ぶして馬小沛子のりこを引く人な
 知らざるそのりまと申すも其量そのりまある者ハ子石万石
 の禄ろく不ふする事わざ有あり是こゝ當代このよ儒者にうしやの悔くやも
 なり然しかも終はに職しやく少すくも福ふくも道みちに生なるも
 世上このよ肩かたに背そむく乃すなはち奔走ほんそうも苦くるみ人ひとお面かえん
 を媚こぶの應對たいおう了しまつ倦う死ししてお申すを及およぶ
 ハ學がくと取とり一いつ業ぎふまじり適あた經濟けいぎの大だい志しを
 抱かかく者ものありとも武ぶ伎ぎ闘たう人にんは惟ただく政せい勢せい
 以もつ委あづかさんやむし回まわ舎しやより江戸えどに出でて立た

身み以もつ縁えんづく者もの二人ふたりあり一人ひとりハ學がく同どうの笑わらを
 ありく儒にう者しやと成な去さ家け拾しやく人にん杖じやく持ぢおし
 有あ付つ今いま六十むそ不及ふたふと立た身みもれし又また一人
 ち小こ切き米まいめてお付つ候こうし立た身みして子こ石
 と經けい上じやうより彼か儒にう士し常じやう悔くやもありハ學がく
 向むかひく八十はちじゆ人にん杖じやく持ぢめくハ果は成じやうきにんめ
 儒にう者しやと云いひ付つハ分ぶん量りやう是こゝ罪つみもなほ仕し合あ
 たり空からいひある所ところ子こ息いき達たつして量りやう成じやう尺せき寸すん
 め生なま質しつおお愿ねがひの事こと成な励れきすす好このふふへへ生なま

質ふおまの取へ控給ふべし

治回此法

一又同然く玉を治るよ儒者ハ入ふや
 答回学ハ古堯舜の天下故治め給ふら
 されども當時治回此方不儒者の入用ら
 所之居れくいそと故いふとなほ法度虫
 ら和文書く人の受へ候へに皆明書状ハ
 一筆啓上おてお済以政ハ古乃堯舜の
 今之治玉此法と成く遠ふ事れ一故不

善物文章の入事もれ一ととくの入用程
 ち流ぐかともくいそ道学向ら宋乃代不
 と益なるハれ一然片始終治る兼らそ
 沃ハ宋儒ハ性理乃学をさし理を以て治
 家時ち法人窮屈がりて公程うりす法
 故以て治る内ハ人列女く賢きハ難き故
 勢めく初ま忍めらハ安きをさし一静
 小機く悉く應じて一卒と控る者れく
 一丈も暇しき事れ一法を以て治る

法を以て民に安んずるに法ありて進退
序を遠へい座席位を起し城郭伎を
冥門守り大臣小臣奉り以人足輕中間
ともそ役をさすも亦小苦しむ事なく
改ハ舊小依訴を少事重し租税と墾比
尤者を賞し不尤者故罰是易簡
かして國を此通例し如形して治るは
別して學者の入事ハ西座好く唯儒者
ら人小乃を教ふ天下此一益者ゆくなく

て何れぬ物とまり給ふべし

心柱

一或同家未おふし道は志し以て一期は少て
夕は忘るべくして志を遂げや 答曰
それぐ世乃並此懦弱くあはるるを強く
あはるる後中乃ん柱が寐て居る由へあはる
それ人のん柱ら義しこと人仁ハ棟梁乃
如し義ハ柱れごとく棟梁もこと柱子の
よは家乃ん柱ら如く乃小志もても義

人柱が起上りて史を改め國に盛れ呉の
 周処らあられ者なれ在里乃孫が吳の
 けく切ひ改め学同して大官に昇り
 晋の裁削ハ賊乃大おおとども陸機
 勵されんを特し晋小仕く功名を以是
 生實善れとともるいへて史をひやくま
 うまれつき史をれ其急に特して善と成
 兎角義とつよん柱の強き者ハ依む可
 此ん柱く寐く居るり起くわると不

内政省み終ふ一ノ乃を切くとらふも家
 業を勵まんとうふも史改マせんとうふも
 渥くハ切起んとらふも此ん柱が三ふれハ
 一りもなぬ相めてハ史して愚れ者ハ人
 のすうと史中改てらと他人と譽少
 あしき史を尺てハ一しき人と後史史
 乃付合詞の増をゆく人此善史を評し
 判つるるいへても史のく善ふる何ハ
 判を消し詞を留て譽揚らち内のん柱を

又付さゆ也へし一且ハ愛ぶもせよん柱の
 老ハ孩小ハ吾人と成べし人のん柱を去ん
 と云く幼稚の者せも耻を知りあぬ
 せ及るく一耻ある者ハん柱成あつて耻ま
 者ハん柱れし左格の老は困窮すとは大
 こゆまゝ縮ひ従ひすすも富じまいつま
 上りして誇り拙し是耻あくん柱なうり
 此くくら成加つり及く其虚不かり之始ハ
 乃加あすむれんべし

虚人實人

一或同尖義常小あの人ハ實人おれハ末れ
 一也作らふ四又年もして必しあま
 内度ハ又虚人と申すも内度ハ此見あま
 義交ハ 答曰おの子細もよん柱の
 人ハ實人ん柱のなき人ら虚人ん柱ハ義
 たり恥を去るも義此性ハ金ぬ時ハ秋小
 あらう以由へん柱のある人も乃成ゆこれ
 人と交係よあら障りまゝく廉しうべし

及へん代一旦乃志一習煉一以社修之
 煉ハオコク善人ニ成中ハ是実人ノ虚人ハ
 不悔く物由へ付合應對不滞王好く善
 悪の考へしれく理非おも後く唯結接人
 とは及へん心根がよき由へ乃をゆても
 進幸あり以終ふお一き友にひくしてさ
 ていもたぐく身上仕果ハ是世上中てんよりハ
 一る麻の庵名とヤめくハ虚ハ一なり
 聊く偽れ虚ふてハ好一実ハみそふくちくく

志実の實とないくハ人一日仁
 義此志起アても其分めくち勅ハ
 そくて之れ一カ是非くとよふ志強ハ
 之ハ日努め三十日努め半年一年中
 修く切く乃の志一胸小実る阿ハ悪
 中も妨まく進ハ乃も努く道中べし中比
 人後之退座の成る事ありべし是ハ根の
 痛さハ修し其用ハありべし虚人ハ人
 其見アく道或ハ書と及く志と吞く

野史言 卷三
勢めんとならざるもん程が起さぬ由一高
あ、申縮妻よりもよく抱よりもきえ
安し又一藝を習ふ人も上より小が申の
娘ひある者、なれどもん程が立とまざ
ぬとみく遂ごとと遂ごらひもし生得ん
純然る人もん程を立と励む時、必若
用ある人より抜却乃上よりと成半る多
し又家業を励む者もん程のほぬ人が
好す功成遂ぐされ、高上よりみく金

持こぬ者あり是ハ儲る事に自賛一由
以て出牙先ハ彼藝を興し一氣を奪れ
家業のちん虚し、又ハ高ハ下
た、まごも守持ひ、是ハ儲き小くたす
成去り儉約小んを入給事小札をうぐ
ま、び家業此公実し、これされバ何事
みくもちよ実名、此に正在あく勢、お
時、おらひ、とり、小事れ、古より四天下を
取士乃功名一藝一能、まぐもん実、一

倉一^{くら}と家人^{かじん}のあひび名^なを成^{なり}り其^{その}うら
擇^{えら}てりま^ま実^{まこと}んと妙^{たね}なる故^{ゆゑ}らよま^まくハ
れ^れ一^{ひと}乃^{のち}を整^{ととの}む時^{とき}ハ匹^{ひつ}夫^ふ亦^{また}ても心^{こころ}ハ且^{また}使^{つか}ふ
耻^{かたじけ}る事^{こと}あ^あ一^{ひと}又^{また}將^{まさ}藝^ぎにん^{にん}実^{まこと}する老^{おい}ハ一^{ひと}
藝^ぎハ遂^{すい}進^{しん}じとも乃^{のち}のん^ん落^おく一^{ひと}てあ^あや^やし
み^みふ人^{ひと}怯^{おそ}むん^んばあ^あえ^えく^くん

人^{ひと}の必^{かならず}一^{ひと}のよ^よま^まに^にあ^ある^る中^{ちゆう}

一^{ひと}或^{ある}向^{むか}美^み翁^う四^し、^{くわん}経^{けい}愿^{げん}一^{ひと}終^{はつ}よ^よる^るご^ごと^とせ^せ

一^{ひと}此人^{このひと}あ^あ一^{ひと}き^き人^{ひと}め^めも^も何^{なに}悔^{くわい}こ^こに^に付^つ合^あト^と成^{なり}ハ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

一^{ひと}一^{ひと}の吐^つく^くを^を始^{はじめ}く^くう^うく^くの^の 答^{こた}回^へ家^かあ^あめ

くは寛マウめして物を容る申此廣き老ハ
油の不成了物として氣の付老ら人をを
め理ふるとき老ハ争を起し儉約する老ハ
吝嗇小頓きんす此老ら懦弱小成を欲
がる者ら家業成怠り大業する者ハか
り事として殆く実効ある者ハ屋一之智
ある老は人を足下以是みま結指がらけ質
と持たがら老と少びんを去るる老其よ
き下り却る物の理屈と成人中もあらり才

もあらしは又と一等より他人あり人乃あま
能謀る人あり人の罪をこがめぬ人あり謀
慮ぶ他人を智を右依ぐぬ人ありけ依
より他人あり物を破るぬ人あり惻みゆる
人あり義よつよき人あり恥ふゆる人あり
是等ハ義上の生質ふれども乃を去るは
其よき下を育てし事事小なり及ばしこと
如くは却り其よき下不遇らして後悔多
しより他人ありて是等の人を去る事

孝子ともなべしそれた孝ハ天下此を乃
志うしふぐうたあはれども乃を志うされば乃
を潔よしとして其儀辱志める事有孝の道
ども乃を志うされど親の心を愁しむる事
あり然る乃の孝くあ乃はある事知れよ
べしされば人れあしき亦を悔んより此亦
を育てん少は志うて子を育つる事と又さ
の如しその一き亦をハ遊く然しその一此
亦を譽く育てよ此亦とあふハ幼く此亦

れん由いあふ志うしきと悦びよ
き亦志うてあし此亦自然となり成終ハ
善人とあべし智く折檻して幼き親とい
こめよ事なれ却て補らる事孝子成強
てあはれあも物少し始をいりては乃
くれし後折檻するハ悉く親の家侮ふ
して幸あ志うしされ由へし其處も此生實
ある事道をよく育てし善人とあはれ又済
子息のよ此亦をも育て終ふべし

孝子ともなべし

孝子ともなべし

右二二の巻まきは下しも総すべ八日市場やちいちば古ふる他た氏しの作しよ
小こくくの夜活よかふる大川氏おほがわし堀ほりの氏し土橋氏とばし西さい
他た氏し其その友ともああてて智ちくく師し牙がの如ごとくくんん柱はしら乃なり
辰たつみ虚よ人ひと実まこと人ひと此こゝ辰たつみハハ豆まめ牙が成なり示しめしし也なり

野總若話卷三終

